



## 部長先生インタビュー

大阪公立大学大学院医学研究科

感覚・運動機能医学大講座整形外科学 中村 博亮教授

—— **同門会員で女性会員数は何名でしょうか？**

現在、当教室には 31 名の女性会員がおります。特にここ 10 年は増加傾向であり、各年 2-3 名の女性医師が在籍しております。

—— **貴教室のホームページでは、研修コースが丁寧に示されていますが、産休・育休・介護休暇などで中断せざるを得ない場合も、この研修コースに速やかに戻ることは可能でしょうか？**

もちろんいずれの場合も速やかに戻ることが可能です。特に妊娠中やお子さんが小さい場合には、院内に保育所を有する病院や比較的人数に余裕がある病院での勤務を考慮するようにしております。

—— **初期研修期間中メンター制度（指導医が、研修医の相談役を務める）のようなものはありますでしょうか？**

大学病院の初期臨床研修ではメンター制度があり、指導医が臨床指導の他、研修医の相談に乗ったり、研究会の案内をしたりしております。実際にはメンターとなっている指導医だけでなく、さらに年齢が近い後期研修中の医師にも色々と相談していることが多いです。

—— **専門領域を決めるにあたっては、本人の希望はどの程度考慮されるのでしょうか？**

完全に本人の希望通り専門領域を決定していただいております。

—— **地域的に遠方への赴任も多いのではないかと推測されますが、育児・介護などの家庭的な状況も考慮されるのでしょうか？**

遠方の関連施設は少ないですが、もちろん近距離の場合も遠方の場合も本人の希望や家庭的な状況を考慮したうえで赴任先を決定するようにしております。

—— **専門性を追求するにあたり、短期・中期の国内留学のような研修制度はありますか？**

当教室では積極的に国内留学を行っていただいております。その期間は受け入れ先の状況によっても異なりますが、短い場合で 3 カ月程度、長い場合は 2 年程度の国内留学をしていただいております。

—— **育休・介護休などで、長期休職後の臨床への復帰にあたり、支援体制はつくっておられるのでしょうか？**

体制は多少病院によって異なりますが、外来のみの勤務や短時間勤務から再開していただき、希望に応じて徐々に手術に復帰していただくようにしております。

—— **最後に医学生・研修医の先生・女性医師への応援メッセージをお願いいたします。**

整形外科では生まれたての赤ちゃんから高齢者まで幅広い年代の運動器疾患を扱います。従って患者さんの数も多く、整形外科医の数も不足しております。また運動器といっても非常に範囲が広いですから、自分に合った専門分野が必ず見つかるはずで。医学生、研修医の先生には是非整形外科医を目指していただければと思います。

当医局では各個人の希望を尊重し、希望に沿った研修を提供するようしております。また専門性を高めたい、基礎研究がしたい、開業したい、海外留学をしたいなど様々な希望があると思いますが、当教室は研修中および研修後も可能な限りその希望の支援を致します。また女性医師のサポート体制も万全であり、バリバリ働く女性医師も育児や介護を両立したい女性医師もしっかりサポートさせていただきます（当教室の女性医師が言っていました、「整形外科は男性医師が多いからこそしっかりサポートしてもらえる」とのことです。）。

まずは一度当教室に見学にいらして下さい。当教室の雰囲気や肌身で感じ取っていただければと思います。是非大阪公立大学整形外科で整形外科専門医を目指しましょう！